

Challenge

会津プロジェクト
はじまりの半年間、
そしてこれから——

ともに挑む。ともに実る。

challenge

東京藝術大学 × 〈みずほ〉プロジェクト

2023年、〈みずほ〉は新たなパーパス
「ともに挑む。ともに実る。」を掲げました。

2024年、会津支店は東京藝大との連携に当たり、
支店独自のビジョンを掲げました。

ともに咲く。——

米澤 武史 Takefumi Yonezawa

株式会社みずほフィナンシャルグループ
取締役兼執行役グループ CFO

1970年生まれ。東京大学経済学部を卒業後、1993年にみずほ入社。2009年にはマサチューセッツ工科大学経営大学院修士過程修了。財務部門や産業調査部門等を経て、ファイナンスのエキスパートとして現職に至る。



“〈みずほ〉的でない空間”

思考のプロセスや発想から変えないと……

——みずほ FG と東京藝大との連携がどのようにして始まったのか、教えてください。

みずほ FG には、金融機関として、人々が持続的に幸せになる社会を実現するという大きな使命があります。そのためには、社員一人ひとりが熱いパッションを持ち、「幸せな社会を作りたい」という思いを解き放って仕事に向き合うことが何よりも大切だと思っています。でも“企業あるある”と言いますか、様々な前例やルールに縛られて思うように自分自身を表現できなかったり、やりたいけど一歩踏み出せないという人の方が多いのが実情です。どうしたらその壁を越えて行動できる人を増やせるのか。常々考えていた時に、もしかしたらそういったことに長けているのはアーティストと呼ばれる方々なのではないかと感じ、何かの糸口になればと東京藝大のドアをノックしたんです。

なぜそれが東京藝大だったのかというと、日比野学長の掲げる藝大が目指すビジョンが、サステナビリティやイノベーション、地方創生などあらゆる面で、私たちみずほ FG のビジョンと驚くほど一致していたからです。もし一緒に何かできたら、お互いが欲しているものを提供しあえるようなすごくいい組み合わせになると確信していました。

——このときにすでにプロジェクトの中身については構想があったのでしょうか？

いえ、まったく白紙でした。ただ、藝大に伺った際に「こんなことがしたい」ということはお伝えしました。それが以下3点です。

- ・アートをもっと身近にしたい
- ・アートで元気になりたい / アートを元気にしたい
- ・アートの力で我々自身も含め社会を変えていきたい

これらを活動の理念に、互いに重なるような活動を増やしていくことで、〈みずほ〉も藝大も目指しているようなみんなが幸せで彩りのある未来を作っていけるのではと考えました。

そして実はもうひとつ、これは私の中でのテーマですが、みずほ FG という大企業の中に“〈みずほ〉的でない空間”をつくりたかったんです。やりたい人たちが役職などを越えてフラットにつながり、自由に活動できるような、そんな場を拡げていきたいと考えていました。

——“〈みずほ〉的でない空間”ですか。まさに会津プロジェクトの場づくりそのものですね。しかし、なぜ今回のプロジェクトに会津支店が選ばれたのでしょうか？

私たちが初めて藝大を訪れたときにご対応いただいたのが福島出身の箭内道彦先生だったこともあるかもしれませんが。それに会津には日比野先生も何度も訪れていたり、はじまりの美術館（注1）や福島県立博物館（注2）もありサポートをお願いできる環境も整っているということで、会津支店に協力していただくことになりました。

——まさに“縁”ですね。

もともと今回のプロジェクトでは地方創生にまつわる取り組みも重要視していましたから、地方でも何かできたらという思いはあったんです。というのも、〈みずほ〉は全国に支店がありますが、基本的にどこに行っても東京と同じサービスを提供しています。ですが、支店を取り巻く経済や社会は東京と地方ではまったく違うわけで、この方法が果たして正しいのだろうか、という思いは以前からありました。現状ではそのような声はまず上がってきませんし、吸い上げる仕組みもありません。会津で何かをやってみたときに、もしかしたらそこについても考えるきっかけになるのではという期待もありました。

——実際にプロジェクトを行う中では、どのようなことを感じていましたか？

未開の地に足を踏み入れるかのごとく、苦労の連続でしたね（笑）。はじめに、会津支店の皆さんにご説明に伺った際には、本当に皆さん困惑していて。若手の方が勇気を振り絞って質問をしてくれたことを今も覚えています。それが「このプロジェクトの

最終到達目標とそこにいたるマイルストーンとスケジュールはどうなっていますか」という質問でした。極めて銀行的に正しい質問だと思いましたね。正しいけれども、このプロジェクトの向かうところからはズレているというか。そこで、「いやいや目的はこれから皆さんと考えます。スケジュールは腰を落ち着けてやれることからやりましょう。今の段階でマイルストーンなどはありません」と話しました。やっぱり最初は相当ギャップのあるところから始まったんだと思います。

——その場がまさに“〈みずほ〉的でない空間”ですね。

そうかもしれませんね。普段の仕事はやるべきことと期限が決まっていて、そこに向けてどう効率的に進めていくか考えますが、今回はそんな慣れ親しんだ思考や行動の様式とはまるで違うものでしたから。面食らうのは自然な反応だと思います。

——米澤さんも参加されたそうですね。

はい。一番初めの「数字から色、色から数字をイメージしよう」という指令を皆さんと行いました。実際にやってみて初めて、「ああ、こういうことがアートのアプローチなのか」と新鮮な驚きがありましたね。これがもし銀行の中だけでやっていたら、何をするか決める段階でいつもの方法論に取り込まれていたと思うんです。そうではなく思考のプロセスや発想から変えないと我々が目指そうとしてるところには行けないんだと思い知りました。

私たちがやろうとしているのは壮大なテーマで、決して短い時間軸ではできないこと。さらに持続性が大切で、そのためにはそこに関わる会津の支店の方自身が変わっていかないといけない。極めて正しい方法なのだと思いますが、一方でとてもはっとさせ



られました。

——なんだか畑を耕すような感覚ですね。

そうですね。もしかしたら、そういった農業のようなことに近いかもしれません。

——何か変化や手応えを感じることはありましたか？

どうでしょう。それこそ私は、20年、30年と活動を積み重ねてやっと初めて変化が生まれてくるようなことだと考えています。まだ最初の一步を踏み出せたのですが、正しい方向に、ちょっとだけ足を踏み出せたのではと思っています。次の2歩目、3歩目をどうするかはこれから。もしかしたら途中で石があって転ぶかもしれないし、嵐に遭うかもしれない。それでも一生懸命足を動かさないと、目指すところにはなかなか近づけないでしょう。そもそもこの活動には構造的な核がありません。ましてや私たちもずっと会社にいるわけじゃないので、メンバーが移り変わっていても想いやビジョンが受け継がれていくようにしないとイケません。活動の理念をきちんと感じ、また感化されて、自分の中でどんどん熟成させ、次の人を感化していくサイクルを作る。すごく大変なことですが、やり続けることがある意味“〈みずほ〉的でない”活動でもあるのかなと感じています。

——実際に参加されている方の反応はいかがですか？

本社の藝大プロジェクト自体は、やりたい人が手を上げて集まったメンバーたちで活動しています。人数もじわじわと増えていて、今は40名ほどで活動していますが、無理にスケールを広げることだけは絶対にしないと決めていて、そのせいか結構楽しんでやっている印象ですね。メンバーの中で自然発生的にイベントが生まれたり、協業が広がっていて、まるで有機的な生き物のようにいろいろなところに伸び始めています。

——アートの力を得たみずほFGに、今後期待することはどんなことですか？

私たちは金融機関ですから金融を通じて経済、社会を支えるのを使命としています。“経済”“社会”というと、どうしても抽象的で無色透明無味無臭なイ

メージですが、その中でも人々は毎日生活し、それぞれの彩のある生活があります。そういうところに目を向けて、いろいろな人を幸せにしたいですし、そのために何ができるか一人ひとりが考えられるようになっていけたらいいですね。そういう人が集まっている会社って素敵じゃないですか？

——そうですね。銀行がより身近に感じられるようになるかもしれませんね。

銀行って15時になるとシャッターが降りますよね。あれは窓口業務の終了の意味のほかに、境界線をはっきりしておくことで、守らなきゃいけない世界が規定されるというのもあるのだと思うんです。ここより外は私の責任の範囲外ですよ、とした方が心が楽なんですよ。でもテクノロジーが進化して社会の考え方が変わるにつれ、それではあまりにも窮屈になってきてしまった。境界線を全部消すのは無理でも、これまではくっきりはっきりしていたものをぼやかすようなことも必要なのかなと思います。

——これからの活動が楽しみです。

何をしたかよりも何かをしようとしてる状態が続くようにしていきたいですね。何度も言うように、この活動は20、30年のスパンで積み重ねていきたいと思っていますし、それが簡単なことではないのもわかっています。それでも一步一步進み続けることだと思うんです。直線的ではなくて、あちこちぶつかりながらかもしれないし、ときには困りながらもそのプロセスも含めて共感し合い、楽しんでいく。この活動が広がっていけば、私たちが掲げる「ともに挑む。ともに実る。」を体現する方向へ近づいていくと思うんです。

それと、私の役割は財務ですから、本来はいわば数字の権化なんです（笑）。そういう人がこういうことを言っているというのもひとつのメッセージとしておもしろがってもらえたら嬉しいですね。ともに、長い目で育てていきましょう。



注1※
はじまりの美術館
2014年 福島県耶麻郡猪苗代町に開館。
築約140年の酒蔵・十八間蔵を改修し、
「様々な人が集える場」として多様な展
覧会やイベントやプロジェクトを実施
している。運営母体は社会福祉法人安
積愛育園。

注2※
福島県立博物館
1986年に県立の総合博物館として、福
島県会津若松市に開館。これまで「ラ
イフミュージアムネットワーク」「ボリ
フォニックミュージアム」「三の丸から
プロジェクト」など、地域住民や企業、
商工会議所、行政、大学、アーティスト
などと連携し、様々なプロジェクト
を実施している。

会津プロジェクトについて

—東京藝術大学と〈みずほ〉による 地方創生への取り組み—

東京藝術大学と株式会社みずほフィナンシャルグループ（以下〈みずほ〉）は、2023年11月7日、包括連携協定を締結しました。目指すべき姿の実現に向けた取り組みの一つとして、東京藝術大学と〈みずほ〉は、「アートでもっと元気に」「アートをもっと身近に」「アートの力で変わりたい」をコンセプトに、「経済だけでなく、アートの力で文化や社会・人びとの生活も豊かで彩ある未来」をともに目指して、様々な連携を深めています。

その取り組みの一つ「会津プロジェクト」は、みずほ銀行の地方店舗を舞台に、アートを基点とした地域活性化および人材育成を目指すプロジェクトです。

会津支店をパイロットケースとして、はじまりの美術館・（一社）会津地域文化芸術フォーラム等、福島・会津地域で活動するミュージアムや文化団体も参画し、会津支店メンバーの想像力を伸ばすための講義やワークショップ、リサーチを実施、会津の地方創生に向けて金融とアートが果たす役割を考え、実践していく計画です。将来的に、成功事例やノウハウを全国のみずほ銀行の地方支店へ展開することも展望しています。

そのスタートにあたり2023年10月から2024年2月まで、月2回「銀行のお茶会」を開き、東京藝術大学 日比野克彦学長より繰り出された「7つの指令」に行員たちが挑戦しました。様々な指令に戸惑いながらも立ち向かい、思考をときほぐしていきました。





会津支店メンバー

みずほ銀行会津支店は、1890年にみずほ銀行の前身のひとつ富士銀行の前身の「安田銀行若松支店」として開設し、2024年9月現在で開設134年を迎えました。福島県会津若松市の中心に位置し、明治時代より地場産業・企業の育成や会津地区の地域価値向上に貢献してきました。

会津支店は法人営業・個人営業・店頭サービスといったフルバンキング機能を備えた総合店。会津支店で働く人数は約30人で、全国転勤のあるメンバーと地元採用メンバーの混合チームです。会津プロジェクトには約15名が参加し、メンバー一丸となって様々な課題設定や解決を目指し、取り組んでいます。

参加チームの紹介

支店長	勝又 裕介（支店長・勝又支店長・勝又さん）
副支店長	丹波 明雄（副支店長・タンバリン）
課長	鈴木 庸広（鈴木課長・ノブ鈴木・鈴木さん）
課長	田中 由美（田中課長・由美さん）
代理	笠原 美香（笠原代理・笠原さん）
渉外課	内田 貴裕（内田・内田君・内田さん）
渉外課	三宅 岳（三宅・三宅君・岳ちゃん）
渉外課	大友 嘉子（大友さん・嘉子さん・大友っち）
お客さまサービス課	松澤 裕恵（松澤さん・裕恵さん）
お客さまサービス課	野口 ゆかり（野口さん・ゆかりさん）
お客さまサービス課	星 聡美（星さん・星パイセン）
個人営業課	
お客さまサービス課	関 啓（関さん・関啓）
お客さまサービス課	新井 康裕（新井主任・新井さん・新井ちゃん）

三宅 岳
(みやけ かく)
やるのはサッカー観るのには野球が好きです!

ラーメンも大好きです



勝又 裕介
(かつまた ゆう介)
野球やサッカー、格闘技が
好きです。



서로 힘내요
호시 사토미



日本酒と赤ベコとサウナ
が好き！



客サ課 新井 浩

米、麺、菓子等、米糖質系の食べ物大好きです
でも、HbA1cが高いので最近控えています...



客サ課 野口ゆかり
「原もろい」
「I LOVE BEER」
キンキンに冷えた
ビールをグビグビと
飲む！ 幸せ！



個人営業課
お客様サービス課 兼任 月 啓 さん

「ありがとう」の言葉が
元気の源です

会津の4姉妹は
食べ物
天ぷらまんじゅう
馬刺し

なまけなものは
テニス
ピアノ
マンガ

どうぶつ占い
さる

バナナ苦手です

笠原 さん

時短家電 大好き!!
情報系

大人になってからのブランクは
色々ちょっと怖い。でも、楽しかった



氏名：内田 貴啓
所属：大手町法人第一部
趣味：スポーツ観戦, ゲーム
! @ # \$ %

お客様サービス課
松澤 さん

game
CRAFT
Logic

仕事はきっちり!
プライベートはざっくり!

好奇心 向上心 多め

猫派 犬派

寒いのが
暑いの苦手
盆地は天板

健康第一
メンタル大事

人生のほっとする瞬間
メガネは友達

スポーツ好き

顧客の懐には飛び込みますが、
自分のパーソナルスペースはなめです。

渉外課 鈴木 さん

渉外課
大友 さん

柴リき
気配りの人

スポーツ観戦 大好き
野球 サッカー スケート バスケット
他にもいっぱい応援しています



東京メンバー

会津プロジェクト東京メンバーは、多様な会社・所属から集まった、アートを愛し、地方を元気にしたい想いに溢れたメンバーです。2024年4月から社内公募により新たに8名のメンバーを迎えて、11名になり、会津支店でのミーティングには主にオンラインで参加しています。会津地域の外で日常を過ごしているメンバーの視点から、アート×金融で地域の活力に繋がるアイデア出しを行い、プロジェクトへの貢献をしていきたいと考えています。

参加チームの紹介

梶原 千春	みずほ信託 / 信託プロダクツ業務部付 CBJ 決済業務部
中山 こころ	みずほFG / アセットマネジメント業務部
村岡 ふみ	みずほRT / 経営コンサルティング部
森 英明	みずほ銀行 / 神田法人第一部
中庭 ほのか	みずほFG / グローバル管理統括部
佐藤 勝	みずほ信託 / 企業戦略開発部
高橋 菜々	みずほ銀行 / 浦和支店々
土肥 清子	東京藝術大学 / 人事労務課
繁定 佳子	みずほ銀行 / 金融市場部
飯田 由美	みずほ銀行 / 外為事務第一部
山下 由莉	みずほFG / 人材戦略推進部

(注)CBJ:日本カストディ銀行、みずほRT:みずほリサーチ&テクノロジーズ

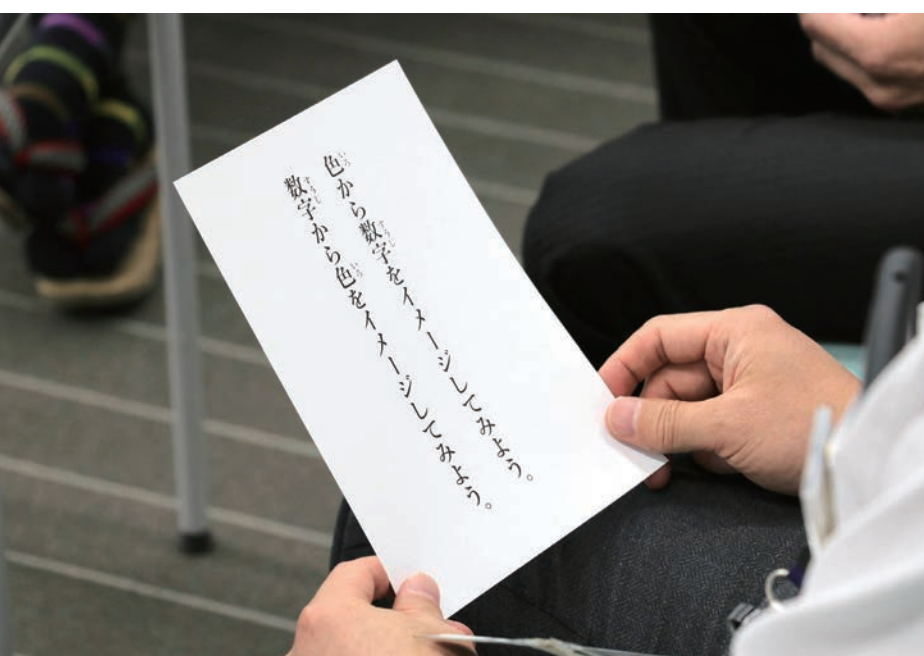


7つの指令について

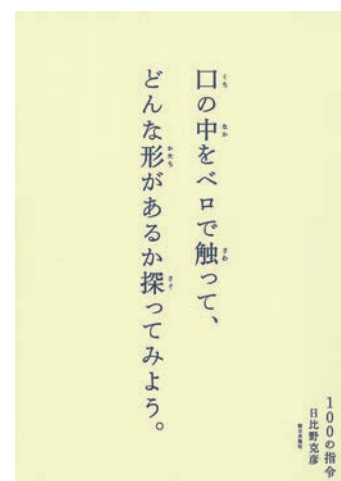
月に2回程度実施した「銀行のお茶会」では、東京藝術大学日比野克彦学長から会津プロジェクトメンバーに向けて「7つの指令」が出されました。会津を知る機会に繋がるようにと毎回会津の美味しいお茶とお菓子を持ち寄り、学長から届く「えっ！」と予想を覆すような、思いもよらない指令のビデオを受け取りました。メンバーは悪戦苦闘しながらも、作品、ゲーム、企画書、展示など様々なアクションで指令に応えました。

7つの指令にどのように取り組んだのか、メンバーによる指令への回答（選抜）と作者のコメントをp17～p31でご紹介します。

6つ目、7つ目の指令で風景が変わった会津支店に日比野学長が来店。指令7の補習のように学長と制作したのれんは「〇〇の日ののれん」となって、次のステージへの道を開く存在となりました。



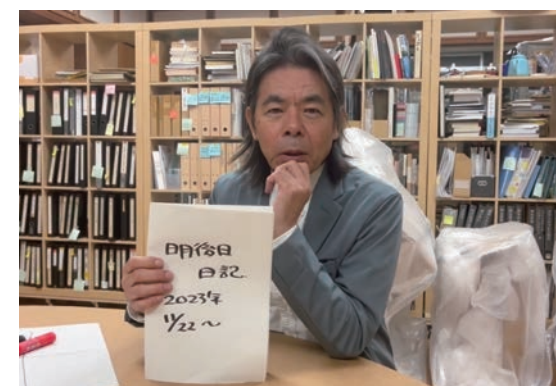
7つの指令の
元になった書籍



『100の指令』日比野 克彦著（朝日出版社）

東京藝術大学 日比野学長から 7つの指令とビデオレター

- 指令1 色から数字をイメージしてみよう。数字から色をイメージしてみよう。
- 指令2 自分の住んでいるところを、自分の住んでいる周りにある物で、伝えてみよう。
- 指令3 地球温暖化ゲーム発売!!
- 指令4 明後日日記を書こう。
- 指令5 日本から見た地球の反対側に、私が立っている絵を描こう。
- 指令6 銀行のロビーを美術館のようにしてみよう。
- 指令7 みずほ銀行の次年度ビジョンを示す暖簾をつくろう。



指令 1



指令の動画

いろ すうじ
色から数字をイメージしてみよう。
すうじ いろ
数字から色をイメージしてみよう。

一見、何の数字か
分からなかったが...考えると

色がラードっぽい

この形も
スゴい発想

8 4 1 1

9 0 0 5

6 1 0 0

9 5

私も、同じ考えの
頭になしてみたい

知的
なんなん。

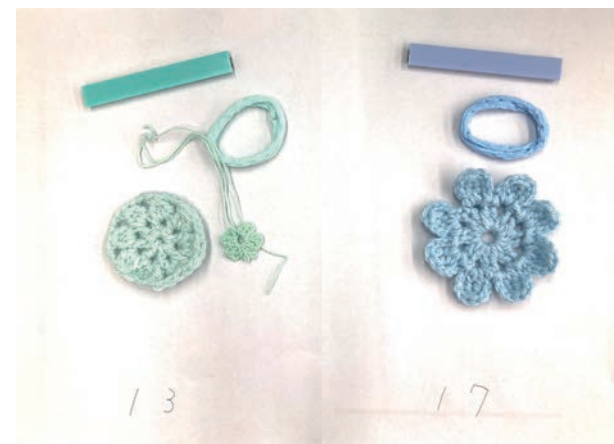
数字も字体が変わると
イメージも変わる!

みんな、なかなか
この戦いにはならないぞ...

思いもかけぬ問いかけに戸惑いながら、24色相環それぞれの色に瞬間的に思い浮かんだ数字をランダムに割り振る。数字を割り振られた色たちは、初めて背番号付きのユニフォームをもらった子供のように、誇らしげに楽しそうに個性を主張し始める。(右の円)〈みずほ〉の証券コード8411、利益目標9,005億円/6,100億円、配当金95円。日々の仕事で目の前を通り過ぎていく数字たち。量的多寡を示す尺度という役割しか注目されない諦めか、どこか冷たく無機質な印象。様々なフォントでアクセントを付ける。(左の数字)

そして、数字を割り振った色で因数分解してみたら、数字もとても幸せそうに見えた。(真ん中)

(注)みずほフィナンシャルグループにおける2024年3月期期初の業績目標値



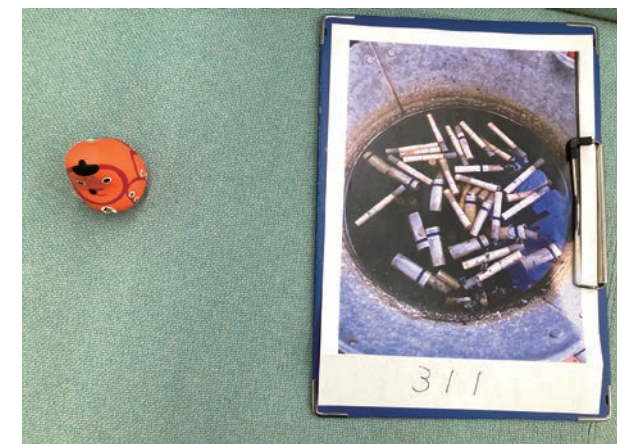
私の中では、偶数＝暖色系、奇数＝寒色系かな...という印象が何となくありました。そして、好きな数字＝好きな色で“13”と“17”を決めました。その色の物をいくつか揃えたのですが、毛糸をそのままでも...と思ったので、モチーフを編みました。ここから私の「何か作らないと気が済まない」が始まったような...



作品名「1」制作時考えていたのは、この数字がもつ魅力とそれに惹き込まれる人間のどろどろしたもの。歴史。人目に触れない世界にいたのに、見つかり、祭り上げられ、名前を与えられ、争いの中心で人の欲を塗られ続け、本来の姿を留めていないが、惹き込まれる美しさが未だにある。纏まらない思いを紙に重ねました。

今回のお茶とお菓子

“福島県立博物館が選んだ”
会津松平氏庭園御薬園の
「いちよう松茶」



某工事現場の傍らにあったバケツ。本来澄んでいた水が、濁って底も見えない。浮いているものも含め、全体の色として、あの“311”の光景を想起せずにはいられない。おまけの橙のタコさんは、当然“8”。会津に古くから伝わる起き上がり小法師をタコにしたもので、「置くとパス」することから合格祈願に重宝されている。



11という数字はちょっと憂鬱になります。

1 2 3 4 5
6 7 8 9 10

数字＝黒色の頭で精一杯ひねり出しました。

“はじまりの美術館と
福島県立博物館が選んだ”
會津豊玉の和菓子と
太郎庵のお菓子



指令 2



指令の動画

自分の住んでいるところを、
自分の住んでいる周りにある物で、伝えてみよう。



私の家は 360° 山に囲まれています。ふたのフチの部分で山を表しました。家の周りを散策し、落ち葉や木の実に拾いました。赤、茶、黄、緑の葉っぱ、紫や赤の木の実がありました。箱の中に落ち葉をしきつめ、水色とグレーの折り紙を手でちぎって川を作りました。材木で、小さい家と橋を作って置きました。こだわったポイントは、ふたの裏側からラップをはってから、ふたをして、あえて手を触れられないようにしたところです。不思議の国のアリスの絵本で、アリスがウサギの家を覗くような気持ちが表現できたらいいなと思い作りました。



私の家の周りはいわゆる新興住宅地なのですが、そんな中でも、神社や医院、測候所、土建屋さんの資材置場と、一般の住宅とはちょっと違う建物があります。その施設を表すのに、神社＝お札、医院＝体温計、にしました。住宅を何で表そうと考えたときに子供が小さい頃遊んだブロックだ！と思い、作りました。



山に行く時の必需品 GPS！家からの半径 5 Km で。



地元で有名な味噌屋と酒蔵の真ん中に自宅がある。マンションながら大きなバルコニーに、そこそこ大きな落葉樹が植えられており、特徴的である。以前はもっと早い時期から紅葉していたらしい。後の指令 3「地球温暖化ゲーム」のヒントになった作品。(しかし自信満々で考えた「エコ・クロニクル 紅葉の行進」はあっけなく選外)



単身赴任者の生活環境をご覧ください。



自分の手の届く範囲にあった健康的なもの。

今回のお茶とお菓子

“はじまりの美術館が選んだ”

岡部館長が淹れたコーヒー
(豆は裏磐梯のRotten coffee
roastersのブラジル)



“みずほ銀行会津支店が選んだ”

会津長門屋の
「是山」と「起き上がり最中」



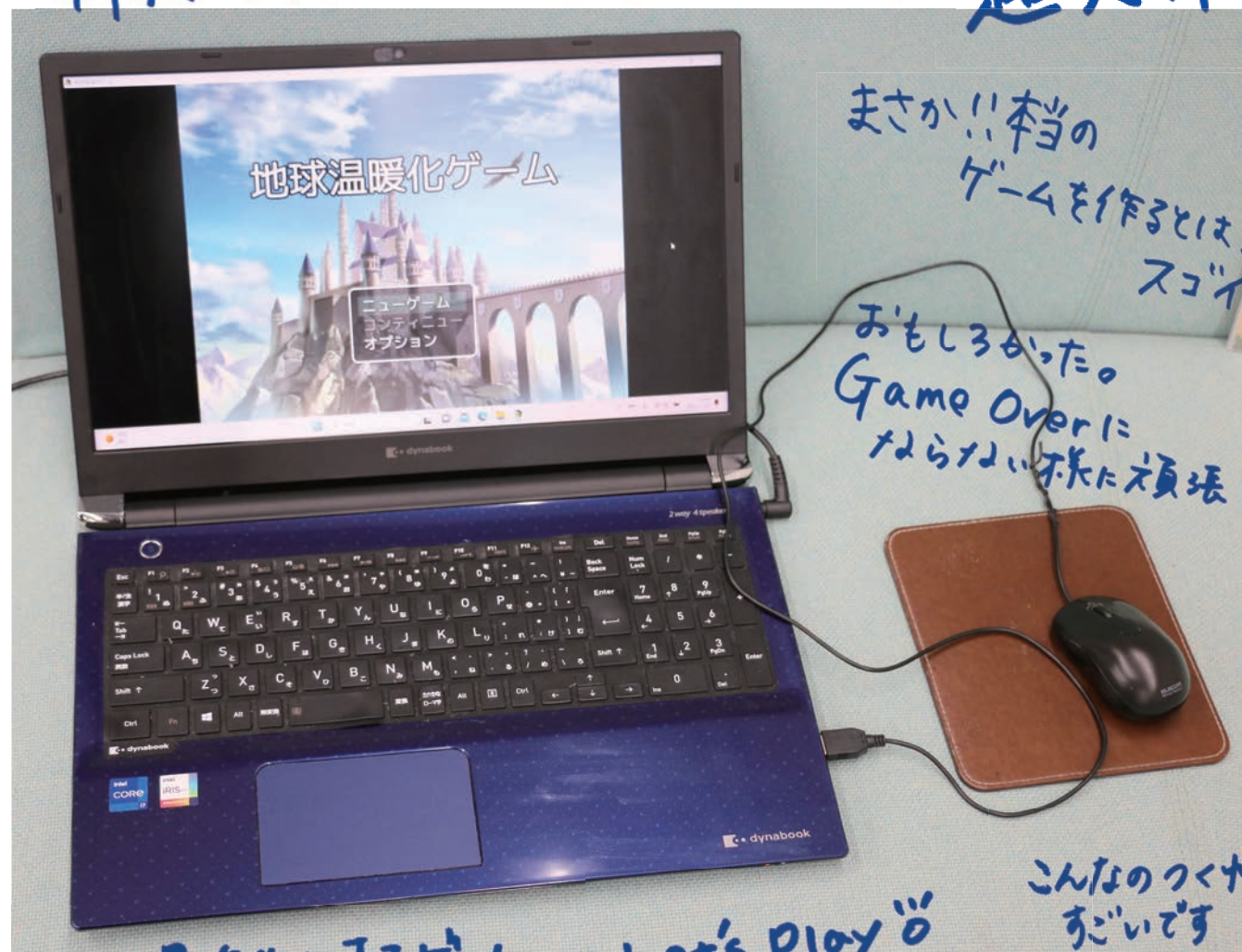
指令 3



指令の動画

ち きゅうおんだん か はっ ぱい
地球温暖化ゲーム 発売!!

実際にやりたが、花外と難しいから。超大作!!

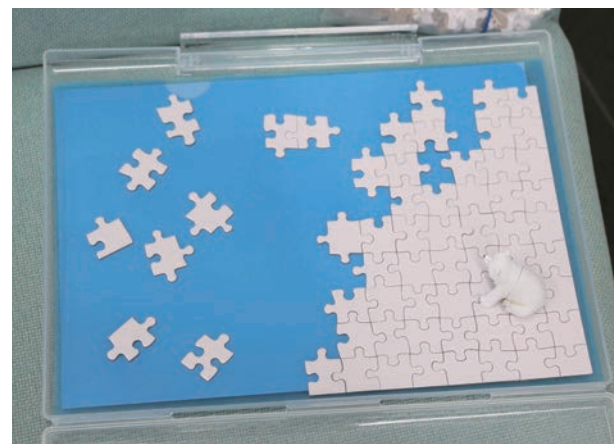


まさかの温暖化にあるゲーム
しかも無理ゲー

Let's play!!

やってみせ〜

私達人類はその一人ひとりが毎日大小数千の選択と決断をしているといわれています。朝食をパンにしようか、お昼は何を食べようか、アフタヌーンティーはどこにしようか、夕飯は外食にしようか等々、毎日の食事が身体を作りあげるのと同様に、毎日の選択と決断が今の我々の人生を形作っております。選択によっては良い、悪い（ゲームオーバー）、どちらでもない等々その結果は千差万別です。地球温暖化もまた、全人類の選択と決断が集積した奇跡的な結果であるといえるでしょう。そんな人類の選択と決断の一端を本ゲームを通じて感じてもらえたら…ということは微塵も思わず、やたらとゲームオーバーになるフリーゲームを参考にして作成しました。

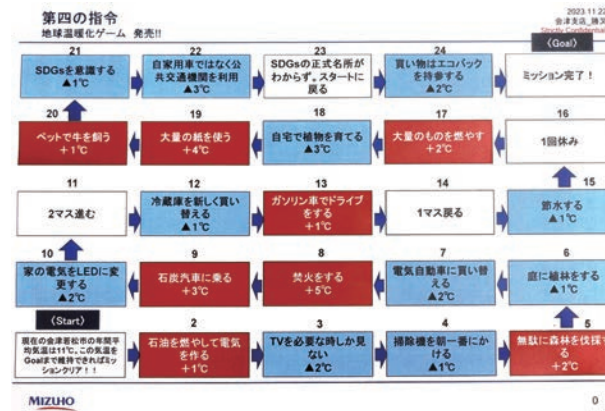


温暖化といえば、北極の氷が融ける、と考えました。その氷を「テオリス」のようにはめていき、“熊”が海に落ちないようにするゲームをイメージしました。はめる＝パズルだと思い、白いパズルで北極の氷に見立てゲームを表しました。テオリスとは違い列が揃っても氷は消えず、でも、時間が経つと消えてしまう設定？です。



指令に対して私は、「学長は地球温暖化ゲームをつくることは望んでいない」と思いました。使用しなくなったカレンダーにそう思った理由を書いて、地球儀の周りに貼りました。動画の中には、学長の他に警備員、母と子が映っていました。世の中には様々な問題がありますが、地球を守ってくれる警備員と、幸せな日々を想像させる母と子が、地球温暖化問題が良い方向に向いていくのではないかなと思わせてくれました。

今回のお菓子



この双六を作成していく中で、何気ない自分自身の行動が、如何に地球温暖化へ悪影響を与えているかを認識しました。自分の子供や孫の世代の地球を守っていくためにも、現代に住む我々が地球温暖化への影響を考えた行動をとっていく必要があると思いました。



みんなで一緒に楽しく遊んで学びましょう。



富士山のふもとの茶畑の砂漠化をジグソーパズルで表現。



“はじまりの美術館が選んだ”

お菓子工房 Fuchs Berg
(フクスベルク) のケーキ

指令の動画

5

指令 5



指令の動画

にほん み ちきゅう はんたいがわ
日本から見た地球の反対側に、
わたし た え か
私が立っている絵を描こう。



「日本の裏側」という指令を聞いて、まず、裏側は『海』だよなあ、と思いました。そして学長が海で楽しんでいる様子を表現したいと考えました。そのパワーや躍動感を伝えたくてポップアップカードを選びました。色々な海の生物を描いて登場させたかったのですが、上手く描けず、諦めました。沢山の○（泡？）と、色々な色を使う事で、海の中の雰囲気を出しました。学長の顔も、何か動物なら描けるかも？と思い、学長を動物に例えると…『狼』かなと思ったので、「耳」を付けました。結果、学長が海で楽しんでいるというより、海の王様のようにってしまったのですが…。

指令の紙を横にしてみると、アルゼンチンの国旗になりそうだなと思いました。《日本から見た地球の反対側》は、QRコードを地球で囲み、アルゼンチンの国旗の太陽のようにしました。真ん中の赤い点は日本を表しています。《私が立っている絵》は、QRコードに学長の顔を逆さまに描きました。国旗の仕上げは、青と白の絵具とスポンジを使って上下に色をつけました。こだわったポイントは、学長の顔を逆さまにしたところと、アルゼンチン→学長→QRコード→日本の順で地球の中に重ねて描いたことで距離感をだせたらなと思いました。QRコードの向こう側に、《アルゼンチンにいる学長》を思い浮かべていただけたらと思います。



自宅リビングに40年ほど前の先生の作品のレプリカを15年前から飾っている。そんな先生を私ごときが絵にするのは、甚だおこがましいと思いながら、30分ほどで描き上げたら、無意識のうちに地球が横向きになっていた。先生の存在感がなせる業である。後刻、先生から直接「よくできました！」と原本に花マルを頂戴した。恐縮千万。

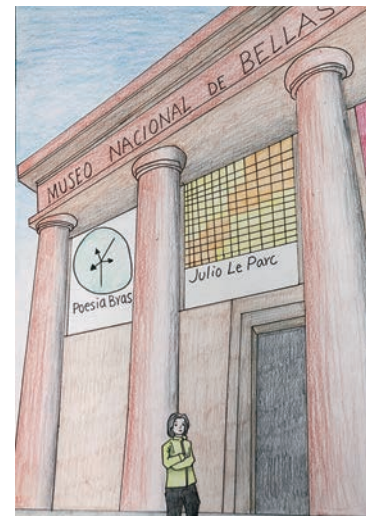


くるくる回して地球の反対側を表現しました。

今回のお茶とお菓子



“福島県立博物館が選んだ”
喜多方・島慶園のほうじ茶



アルゼンチン国立美術館の前に立つ日比野学長を描きました。指令の動画で日比野学長のラフな装いが印象的でしたので、目を引く壮大な建物の前にラフな装いの学長が立っている姿を想像しました。調べてみると入場無料の国立美術館ということで興味ありますが地球の裏側はとても遠く、行ったつもりになりたいと思います。



亜爾然丁の奥地に暮らすラスボス！



“みずほ銀行会津支店が選んだ”
「干し柿と会津葵のかすてあん」

指令 6



指令の動画

ぎんこう
銀行のロビーを
びじゅつかん
美術館のようにしてみよう。



現役東京藝術大学の学生が赤べこに絵付け



現役東京藝術大学美術学部デザイン科の学生が制作したトートバック



今回のお菓子

この指令は銀行を美術館のようにするという、これまでの業務経験からは到底想定もできないはじめての試みでした。未知の取り組みでしたが、藝大・福島県立博物館・はじまりの美術館の方々と協力しながら、のれんのデザインや赤べこタワー、レイアウト案等、メンバー全員で多種多様な意見を出し合いました。〈みずほ〉のパーパス「ともに挑む。ともに実る。」を、藝大と連携した「金融×アート」で表すことができたのではないかと思います。



“はじまりの美術館が選んだ”
ビルゴ洋菓子店の「猪苗代ぷりん」

指令 7

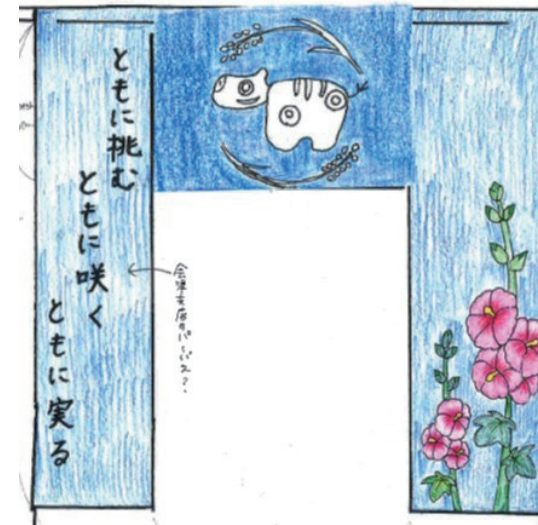


指令の動画

ぎんこう じねんど しめ
みずほ銀行の次年度ビジョンを示す
のれん
暖簾をつくろう。



暖簾のデザインについては、支店のメンバーで募った意見をもとに、藝大や地域コーディネーターの方々にブラッシュアップしていただきました。「みずほ銀行の次年度ビジョン」がテーマでしたが、「会津要素を入れたい」というのがメンバーの総意だったので、「会津支店らしさ×〈みずほ〉の次年度ビジョン」というのが、検討の軸となりました。



1つ目の暖簾については、中央に会津名産の赤べこ、右に会津若松市の花・タチアオイ、右に〈みずほ〉の新パーパス「ともに挑む。ともに実る。」に、会津支店らしさとして「ともに咲く。」を足しました。製作には地元の老舗デザイン会社・関美工堂さんに協力いただきました。納期が非常に短い中でしたが、ナイロン仕立てでの製作を提案いただき、無事納期に間に合ったうえ、素晴らしい仕上がりとなりました。「納期がもう少しあれば、会津木綿で仕上げるのができたのに」と悔しがおられ、会津の職人魂を感じました。



今回のお茶とお菓子

“はじまりの美術館が選んだ”
石堂園茶舗
オリジナルブレンド茶「老松」



“みずほ銀行会津支店が選んだ”
治一郎の「バウムクーヘン」



2つ目の暖簾については、非常に巨大なサイズで全長 160cm、幅 120cm もあり、来店されたお客さまには必ず目につきます。藝大プロジェクトを経て、会津支店の新たな門出を象徴する蝶の羽ばたきは、会津出身で支店を長年支え続けてくださっている客サ課長のアイデアでした。筆者は会津支店で4年間お世話になり、2024年4月に会津支店から羽化し新天地へ羽ばたきました。新たな会津支店の門出を見られなかったことが心残りです。

(注)客サ課長:お客さまサービス課長の略



最後の指令



指令の動画

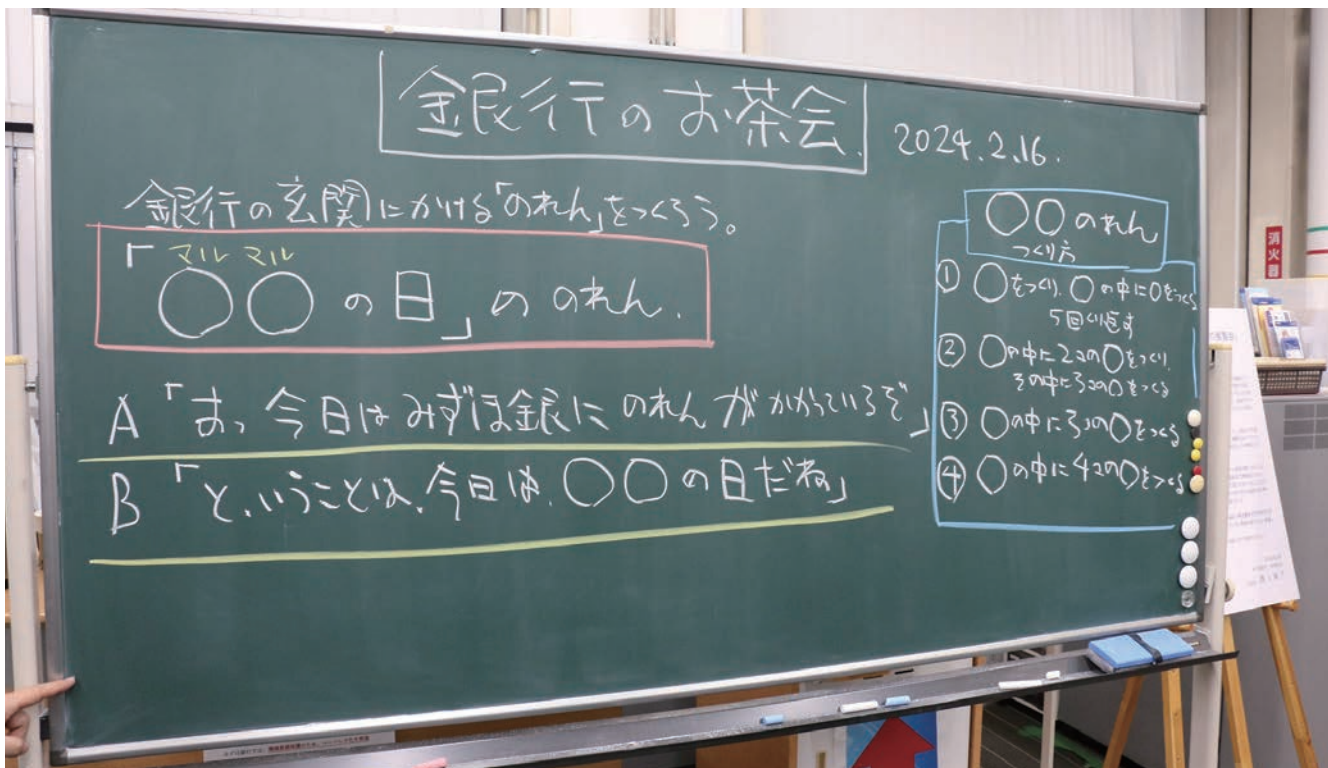
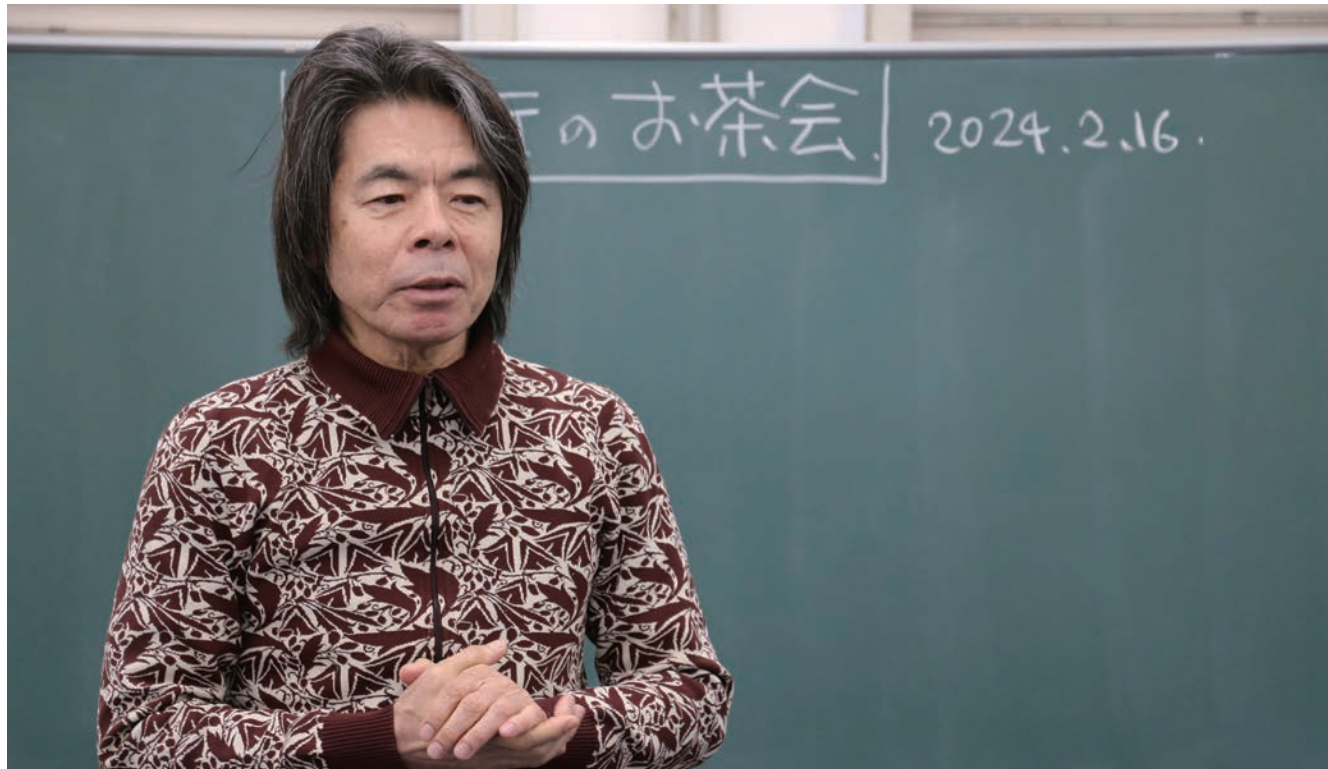
ぎんこう げんかん

銀行の玄関にける「〇〇の日ののれん」をつくろう。

～のれんの役割～

A「おっ！今日はみずほ銀行の玄関にのれんがかかっているね」

B「ということは、今日は〇〇の日だね！」



〇〇のれん 作り方

1. 〇をつくり、〇の中に〇をつくる5回くり返す
2. 〇の中に2コの〇をつくり、その中に3コの〇をつくる
3. 〇の中に3コの〇をつくる
4. 〇の中に4コの〇をつくる



会津プロジェクトの一年目を終えて

昨年度から本格スタートした藝大×〈みずほ〉連携の一つである会津プロジェクト。特に昨年10月からスタートした、日比野学長からの「7つの指令」は衝撃の日々で、会津支店メンバーとオンラインで参加している東京メンバーは悶々としながらも、これまでの自分達にはない若しくは自分一人では引き出すことのできない発想を駆使して何とか指令についていきました。またその過程では、会津支店メンバー間や会津-東京メンバー間の拠点の垣根を越えた会話量が自然と増えていきました。加えて、そのプロセスにてお互いの価値観を確認しあう機会は数多くあり、メンバー間の相互理解や相互尊重が進んだと思います。“アートを持つ力”を改めて認識した次第です。

2024年3～4月にかけて実施した当店ロビーにおける作品の展示では、お客さまとの会話量も増加し、本プロジェクトやアートに対する関心を引き出せたと思います。会津メンバー・東京メンバーともに大変でしたが、一方で充実した日々を過ごせました。

今後は会津メンバーと東京メンバーが一緒になって本取組で培った経験やノウハウを〈みずほ〉内に伝播しつつ、外部にも進出していくことで、地域貢献や課題解決を果たしていきたいと思っています。組織の枠を越え、「ともに挑む。ともに実る。」今後の会津プロジェクトや藝大×〈みずほ〉連携に是非ご期待ください。

会津支店 支店長 勝又 裕介



一年間の活動を終えて 会津メンバー・ 東京メンバーの感想

周囲の方の発想力に驚くばかりの一年間でした！改めて人って色々な考えをするんだなーと。(会津・田中由美)

会津メンバーと色々な可能性を広げていたら！お会いできるのを楽しみにしています！(東京・繁定佳子)

アート×金融で、会津の魅力を広めることに貢献したいです！
(東京・中山 ころろ)

メンバーの表現を受け入れ、自分の表現を受け入れてもらう、ほんわかしたやりとりが心地よかったです。
(会津・関啓)

難解な指令に戸惑いもありましたが楽しく活動出来ました。参加した皆さんの豊かな感性に驚かされました。(会津・鈴木 庸広)

会津の取組が各地に広がると良いと思います。
Eyes to me! (東京・森 英明)

作品作成に関わるができなかったのが、悔しいです。皆様の作品を全国のみずほ銀行の支店に届けられるよう頑張ります。(会津・三宅 岳)

メンバーの方たちのお仕事とはまた違った一面が見れて面白かったです。同じ方もいた、かな？(会津・星 聡美)

東京に居ながらアートと金融で会津地域の活性化に関われてうれしです！(東京・中庭 ほか)

皆さんの発想力に感動しました。そして、忘れていた作る楽しさを思い出しました。(会津・松澤 裕恵)

銀行員は正解を求めがちですが、アートの世界には明確な正解が無いことが多く新鮮でした。銀行の常識に囚われることなく、多様な価値感を理解し尊重できるようになりたいと思います。(東京・内田 貴啓)

中学生の頃、美術好きだったなあと、あの頃の気持ちを思い出しました。今後もアートにふれていきたいと思います。(会津・野口 ゆかり)

あつという間の一年間でした。またメンバーの違った一面が垣間見えて良かったです。(会津・勝又 裕介)

アートの力で人が繋がり、指令に向き合いみんなの自分らしさが見えた。ともに挑み、屹度会津は元気になる！
(東京・山下 由莉)

〈みずほ〉のアートといえば福島・会津PJだよね！と言われるような活動にしていきたいです！
(東京・飯田 由美)

毎回指令には頭を悩まされました。そして皆さまの素晴らしい発想力に驚かされてばかりでした。
(会津・新井 康裕)

参加当初はこんな大きな展開になるとは想像していませんでした。指令に悩む日々でしたが楽しかったです。(会津・大友 嘉子)

会津・福島からアート×金融を叫びたい！あと白虎隊大好き！(東京・佐藤 勝)

会津PJを全国、そして世界に広げていきたいです。新たな可能性をともに！(東京・土肥清子)

アタマは多少柔らかくなったかも？でも、芸術的なアウトプットまでは至りませんでした。真摯に取り組むメンバー達から、たくさんのパワーをもらいました。(会津・丹波 明雄)

作品共有の際、そんな視点があつたのか！と、世界が広がる感覚があり楽しく参加させていただきました。(会津・笠原 美香)

アートと金融で会津を「ともに元気に！ともに彩る！」
(東京・高橋 菜々)

アート×金融で、斬新な展開♡広がる活動に、ワクワクしてます！(東京・梶原 千春)

福島・会津にアートと〈みずほ〉がアメーバのように混ざりこんで、魅力を光らせたいです！(東京・村岡 ふみ)



日比野 克彦 Katsuhiko Hibino

美術家・東京藝術大学学長

1958年岐阜県生まれ。東京藝術大学大学院修了。国内外で個展やパブリックアート・舞台美術など、多岐にわたる分野で活動中。2022年4月1日より現職。他の主な要職として、岐阜県美術館長、熊本市現代美術館長、日本サッカー協会社会貢献委員長を務める。



「今日は〇〇の日だね！」 “シャッターからのれんへ”

——今回のみずほFGと東京藝大との連携は、〈みずほ〉側からはじめにアプローチがあったと聞きました。

そうですね。理事の国谷裕子さんと藝大が共著で出版した「クローズアップ藝大」（注1）という本を、米澤さんがお読みになって、それで声をかけていただいたと聞いています。本の中で、藝大と世の中をもっと繋げていこうというような話が展開されるのですが、〈みずほ〉と藝大が手を組んだら何か新しい動きが生まれるのではと感じてくださったようです。

——その時点では、「会津プロジェクト」のことは決まっていなかったんですよね。

決まっていませんでしたが、〈みずほ〉側には、社員の気持ちをアグレッシブにするような新しい何かを

したいという思いがあったようです。藝大としては、すでに始まっていた「東京藝大アートフェス」（注2）に対する支援をお願いしたり、行員に向けたワークショップなどを提案して、少しずつプロジェクトを進めていきました。会津支店で何かできないかという話も、その中で出てきたように思います。会津といえば、はじまりの美術館も福島県立博物館もあり、私にとってもなじみのある場所ですし、ちょうどこういったプロジェクトの経験も豊富な伊藤達矢先生の出身地でしたから、「帰省ついでにどう？」と声をかけて（笑）、動き始めました。

——会津若松には運営体制が整っていたということでしょうか。

少なくとも地域の熱が感じられる場所ではあったかなと思います。以前から、会津若松市内に美術館を

作ろうとしているグループがあると聞いていたので、そういう方々の持つパワーもうまく絡められたらという思いもありつつ。とはいえ全国に支店がある中で、「なぜ、会津？」というのはもちろんありましたよね。ましてやメガバンク。関東近郊の支店のほうが何かと動きやすい部分もあったでしょうが、そこも含め〈みずほ〉の挑戦だったのだと思います。

——「7つの指令」のアイデアは、どのように出てきたのでしょうか。

もともと僕が2003年に出版した『100の指令』（注3）という本がもとになっています。「会津プロジェクト」で何をするか話し合う中で、伊藤先生から提案いただきました。スケジュールなどを考えて、さすがに100個は難しいけれども7つくらいはできそうだという話になり、「7つの指令」というタイトルに決まりました。指令は、会津の皆さんをイメージしながら、僕が新たに書き下ろしました。毎回指令を伝える動画を撮ったりもして、なかなか楽しかったですね。

——手応えはいかがでしたか？

僕は最後しか現場に行けていないのですが、はじまりの美術館の大政愛さんや福島県立博物館のチームにはじめからメンター的な役割で入ってもらっていて、逐一報告は受けていました。銀行が閉まった15時以降に、来客用のスペースに集まって指令に取り組んでいただいたそうですね。なかなか盛り上がっている様子は聞いていました。行員同士も、日頃一緒に仕事はしていても、なかなかお互いのことを知る機会がなかったそうで、これをきっかけにコミュニケーションが生まれたという話もあったり。それを聞いて、次はこんな指令にしようとか、みんな慣れてきたから次は変化球を投げてみようとか、アイデアも出しつつ進めていました。

——課題の前には必ずお茶会をしていましたね。

そうそう！ 最初は「銀行のお茶」というタイトルにしようと思っていたんです。というのも、僕にとっての最初の銀行のイメージは“お茶”だったんですよ。小学生の時にバスで通学していたのですが、最寄りのバス停の近くに銀行があって、バスが来るまでの間、友人たちと銀行の中に入って出してもらっ

たお茶を飲んでいた思い出があって。夏はクーラーが効いていて涼しくてね。でも子供だからそこが銀行だとは知らなかったんです。それがある日、銀行の方から「おたくの子供たちがうちに来てお茶を飲んでいる」と学校に連絡が来て（笑）。その体験をお芝居にして上演したんですよ。今回も銀行でワークショップをすると聞いて、真っ先にお茶のことが思い浮かんで、お茶を飲みながら課題をしようと思いました。

——「7つの指令」の目指したものはなんだったのでしょうか。

行員たちが日頃の仕事とは違うことをして刺激を受けながらコミュニティが生まれることを想定していました。自分の仕事を見つめ直すところから始めて、次に勤務先とプライベートの間について考えてみる。活動を少しずつ銀行の外に出していくようなイメージです。

——のれんを作るアイデアもこの時に生まれたのでしょうか。

そうですね。のれんを出す行為は、お客さんを迎える印になります。銀行にのれんがかかっている日は、銀行+αが行われていると、地域に向けてアピールできたらいいなと思いました。実際に外にのれんをかけて「今日はみずほ銀行にのれんがかかっているよ」「ということは今日は〇〇の日だね！」と言い合ってみる小芝居もしました。どう機能するか、演じたほうが身につくだろうなと思ってやってみましたが、通行人の方も不思議そうに眺めていましたよね（笑）。〇〇に入るものはなんでもいいと思っていて、行員の方のやりたいことでもいいし、みんなでお茶会でもいい。地域に開いていくことが大事だと思うんです。



——そこからどんな変化を期待しますか？

銀行が銀行業務以外で地域や市民とつながることがまずひとつ。あとは、行員のモチベーションを上げるきっかけにもなればと思っています。仕事が終わったらすぐ家に帰る人が多いと聞くので、そこにワンアクション入れてみるというか、銀行の中にサードプレイスのような場所があってもいいのかなと思うんです。「今日は仕事を切り上げて〇〇の日をしようかな」みたいに。実際にワークショップをしてみても意外に面白いことを考える方が多くて、いろいろと活動も広がるのではないかと思います。

——行員の方が自由に個性を表現できるような取り組みになりそうですね。

仕事とプライベート、自分の空間と街は、きっぱり分けるのではなく滲んでいるくらいが一番いいと思うんです。銀行もそうですね。シャッターを締切ってしまうのではない、のれんのような少し隙間が空いているくらいが心地よいはず。“シャッターからのれんへ”みたいなイメージが、銀行にも個人にも生まれると、銀行の役割とか個人のモチベーションも変わっていくんじゃないかなという期待感がありますね。

——実際に現場の行員の方が参加しているプロジェクトは「会津プロジェクト」だけだそうです。そういう意味でもアートの力がより試される場でもあるように思います。

一度、本社でワークショップをしたことがあったり、「東京藝大アートフェス 2024」で、藝大生の作品を〈みずほ〉の社員の方に見てもらって投票で“みずほ賞”を決めるというような参加型の取り組みもしていますが、実際にひとりひとりの顔が見えるという意味ではその通りだと思います。

——社会に与えるインパクトも大きいのではないのでしょうか。

「あの〈みずほ〉が藝大と？」という感じで、驚きを持って迎えられているのではないのでしょうか。メガバンクがアートで社会を変えようとしているというのは、ほかの企業や経済界においてもインパクトのあるニュースだと思いますし、〈みずほ〉の社員の方にとっても「うちが藝大と組んで何かしようとし



ている」と前向きなメッセージを感じてくれていたらしいです。

——プロジェクトはこれから 30 年続いていくようです。

銀行は経済、財務の象徴で、一方で藝大は非財務の象徴です。しかし、非財務といえども、人間はメモリがないと自分の位置がわからずに不安になってしまいますから、どこかで財務化はしたいわけです。だから非財務の“見える化”が必要だと思っていて、実際に今藝大では非財務をどう評価し、他者と共有するかといった研究も行われているんです。一方で、財務に追われる〈みずほ〉は非財務の感覚を欲しています。数字や時間との戦いで、疲弊する部分も多いのでしょう。非財務で私たちの世界を潤わせてほしい、と渴望しています。そんな両者がタッグを組んで互いに必要としていることを与え合うということが、今回のプロジェクトの意義であり本質と考えます。

——「ともに挑む。ともに実る。」は現在の〈みずほ〉のキャッチコピーですが、このプロジェクトにも当てはまる言葉ですね。

そうですね。〈みずほ〉にとっても藝大にとっても、実りあるものになることを願っています。



注 1 ※
クローズアップ藝大
東京藝術大学国谷裕子理事による教授たちへのインタビューを通じ、藝大をより深く掘り下げていく取り組み。ウェブ上での公開を経て、2021 年に河出書房新社より出版。国谷裕子＋東京藝術大学 著。

注 2 ※
東京藝大アートフェス
2021 年から実施しているオンライン上のアートフェス。2023 年より〈みずほ〉との連携により社会課題の解決に貢献するとともに、経済だけでなくアート・文化も持続性ある豊かな社会を共創している。2024 年は、芸術家の発表の場を提供しアーティストを育成するとともに、アートと社会のかかわりについて共に考え、社会の様々な領域におけるアートの新たな価値や役割を創造することを目的に、世界の 7 つの大学 (ARTs7) と連携して開催する。

注 3 ※
『100 の指令』
日比野克彦著。2003 年に朝日出版社より出版。

これから始まる『〇〇の日』

『〇〇の日』について話し合った。

銀行にのれんが出ていたら『〇〇の日』。

これからたくさんの『〇〇の日』が始まるかも…



気になっている本を紹介する日
銀行で投資信託を知る日

だるまの日

カフェの日

子どものお茶会の日

スポーツの日

地域の子どもたちとアートをつくる日

NISAカフェの日

アートにふれる日

カルタをつくる日

起き上がりこぼしを絵付けする日

学童延長の日

絵のレッスンの日

銀行のシャッターが、 のれんになる日。

貯金箱をつくる日

博物館へ行く日

お酒を知る日

「お金」をわくわくするものにする日

通帳をつくる日

鑑賞をする日

ビッグアートの日

アート作品をつくる日

アートの日

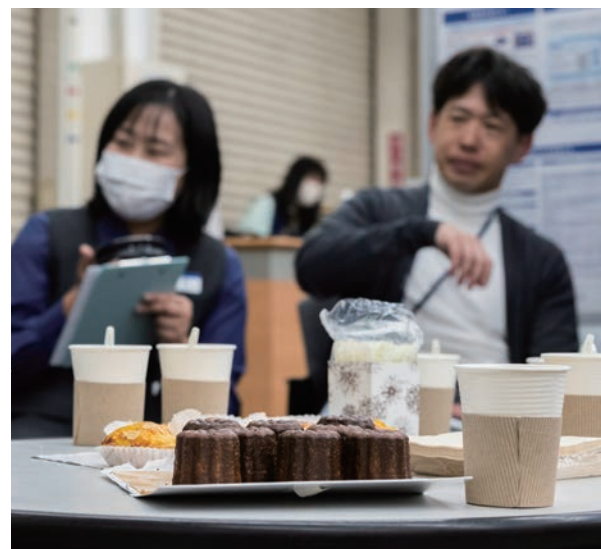
銀行じゃない日

〇〇さんが見えてくる日

銀行で手続き以外のことでつながる日

手を動かす日

絵画にふれる日



銀行のお茶会1…… 2023年10月13日
銀行のお茶会2…… 2023年10月26日
銀行のお茶会3…… 2023年11月8日
銀行のお茶会4…… 2023年11月22日
銀行のお茶会5…… 2023年12月5日
銀行のお茶会6…… 2023年12月19日
銀行のお茶会6.5…… 2024年1月11日
銀行のお茶会7…… 2024年1月23日
展示設営…… 2024年1月29日
展示設営…… 2024年2月5日
展示設営…… 2024年2月14日
銀行のお茶会8…… 2024年2月16日

協力

のれん印刷協力 株式会社 関美工堂
会場施工、のれん加工・施工、展示具製作 東海堂アド芸

Challenge

ともに挑む。ともに実る。

会津プロジェクト
はじまりの半年間、
そしてこれから――



東京藝術大学 × くみずほプロジェクト

2025年1月31日発行

ディレクター
ディレクター補助・責任編集
モデレーター
編集
執筆
インタビュー
デザイン
写真

日比野 克彦(東京藝術大学 学長)
伊藤 達矢(東京藝術大学 社会連携センター 副センター長 / 教授)
川延 安直、小林 めぐみ、岡部 兼芳、大政 愛
みずほ銀行会津プロジェクト 会津メンバー・東京メンバー、川延 安直、小林 めぐみ、岡部 兼芳、大政 愛
みずほ銀行会津プロジェクト 会津メンバー・東京メンバー
渡部 あきこ (p.2～p.5、p.36～p.39)
物江 あゆみ
表紙・p.9～p.13・p.34～p.35、p.40岩波 友紀、p.2～p.5・p.15・p.36～p.39縣 健司、
p.29の集合写真と赤べこの写真 東京藝術大学、p.1・p.6～p.7・p.16・p.19～p.32、p.42～43はじまりの美術館
一般社団法人会津地域文化藝術フォーラム、福島県立博物館、社会福祉法人安積愛育園はじまりの美術館
三洋印刷(株)
東京藝術大学×くみずほプロジェクト